

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100112		
法人名	(有)ユースネットワーク		
事業所名	グループホームあさかわ		
所在地	長野市浅川300-2		
自己評価作成日	平成21年11月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090100112&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりを大切にしくまでも「人」として利用者本位を第一に考え、そのらしさを維持していけるよう全職員が自己のレベルの向上の為、利用者と生活を共にする中から学び努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長野市北部の浅川地区に静かな平屋のたたずまいがグループホームあさかわである。この浅川地区で事業をはじめたときに独居で一人暮らしの利用者を支えるため、行き場のない利用者を引き取り有料老人ホームの開設に至った。その中で重度認知症の利用者を支えきれなかった思いが残る、これを支えていけるのはグループホームであると感じた。お世話になったこの浅川地区にこの経営者の思いからこのホームは作られたという。経営者、管理者の利用者本位を常に念頭に置き、課題が生じたときは常に利用者へ寄り添い利用者の訴えや行動に耳を傾ける。拘束や制限することせず、専門医との連携も行いアドバイスに基づき、利用者の持つ能力を最大限に引き出し一人ひとりの安心した場所や関係性を築いている。穏やかな空気の流れ、居心地やすい空間が玄関に入ったときに感じられるホームである。
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(あじさい)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(てっせん)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は、これまでの実践の中から学んだことを事業所としての理念として共有し「本人本位・利用者中心」の支援に努めている。</p>	<p>ホームの理念として大切にしている「本人本位・利用者中心」の支援を月2回のミーティングの中でスタッフが講師となることで意義が深められ、日々の行動で確認し合い、理念の共有や実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>隣接の小学校との交流会や地域の運動会や祭りへの参加・地区の支所での祭り時の作品展も行なうなど地域とのつながりを持つことが出来ている。またホームからの便りとして年2回の発行をしたりホーム祭りへの参加の呼びかけも行っている。</p>	<p>小学校のボランティアが年3回くらいホームに来て交流している。また、音楽会にも招かれ、地域の運動会や祭りに参加している。地域への作品の展示も行い、最近では書道ボランティアも定期的に来ることで利用者のいきいきした生活につながっている。また、ホーム便りも年に2回は回覧しホームの理解に努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>来訪時に相談にのったりアドバイスを行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや活動内容を報告し参加者と意見交換している。出された意見や要望は後日職員とミーティング時に話し合いサービスの向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月ごとに行なっている。利用者の状況報告や活動報告を行い、ホームに対する要望や意見、地域の災害時の協力し合える体制作りの提案、助言もなされ今後の課題やホームの理解の場にもなっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加依頼を行い出来る限り参加してもらっている。会議にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え必要に応じアドバイスしてもらっている。あんしん相談員の訪問は毎月あり協力関係が築けている。</p>	<p>運営推進会議にも地域包括支援センターと共に市担当職員も参加し、ホームの状況や課題についての助言をしている。またあんしん相談員も定期的に訪問し、推進介護の参加やボランティアなどの協力もいただけている。</p>	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解しており玄関等の施錠は勿論、過剰な薬物による拘束も行っていない。	月2回のミーティングや日頃のケアの中で気をつけねばいけない言葉の拘束や過剰な薬物による拘束なども含め身体拘束について職員、管理者が正しく理解し日々取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時を利用し高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ちさらに日常の中で無意識に言葉による虐待的な要素を含んだ対応が聞かれた場合にはその場で個別に注意をしたり再度ミーティングに取り上げ職員全員で再確認を行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はグループホームネットワーク会議又は、研修会等で学ぶ機会を持つことができおりミーティングにて職員に周知している。現在まで必要のある方はいないが、必要時関係者と話し合い支援できる体制づくりは出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等時には書面を使用し説明を行っている。不安や疑問には丁寧に対応し理解や納得をして頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に交代で家族や利用者が参加しており、要望や意見をだして貰っている。出された意見・要望は改善に向けミーティング時に職員全員と意見交換をし運営に反映させている。また利用者はあんしん相談員と話す機会も設けている。	利用者家族は、運営推進会議で意見を言える場があり、ホームに対する家族への連絡方法など不安のない連絡の工夫についての提案がなされ改善に結びついた。また、家族の来訪時にも意見など伺えるように声かけなどに努めている。今後、運営推進会議報告書など家族皆に送ることで更なる意見が、ホームの運営に反映できる手段になる様に考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の全体ミーティングが行われており代表者、管理者等全員参加で話し合う機会があり反映出来ている。	月2回のミーティングがあり、経営者、管理者が参加し、意見を言える環境にある。会議でも日々の中でも悩んでいることなども相談しやすい。ケアや運営に対する意見、提案もでき仕事の意欲につながっている。	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に管理者や、職員の顔が見える位置におり現場での職員の個々の努力や実績・勤務状態を把握し職場環境・条件等の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、日常的に現場での職員個々の実際と力量を把握できる状況にあり経験年数や力量等を管理者と相談し研修を受ける機会の確保をし、ステップアップを進め代表者の関係で便宜が図れるときは積極的に声をかけてくれている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議への参加をし勉強会や同業者との情報交換や意見交換をしている。相互訪問等についての話もあったが各ホームでも人員の問題もあり実現に繋がっていないのが現状である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅へ訪問し直接本人と会い不安なこと、困っていること、求めている事などを聴く機会を作り、受け止めるよう努めている。またホームの方へも来て頂きホームの様子などを見て頂く機会も設けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅への訪問やホームの方へ来た時に困っている状況、不安なこと、求めていることの相談にのれるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や本人の意向を聞き又ケアマネージャー等からも十分な情報を得るなどをし、見極めを行い他のサービス利用にての対応も考慮に入れた対応に努めている。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で生活を共にする一人の人として、本人の生きがいや出来ること、出来る可能性のあることの把握をし日常的に行えるよう支援したり又教えてもらう場面作りや声がけを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の折にはコミュニケーションを図り本人の状況を伝え情報の共有を図り定期受診時の対応や、ホームの行事への参加の呼びかけ又慶弔関係には出来る限り本人の参加を呼びかけ共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所時などゆっくり気兼ねなく話しが出来る場を提供し歓迎の意を伝えている。また理美容室の利用も家族の協力にて馴染みの場所を利用している。	受診は毎月一回家族との関係性を保つためにも依頼し出かける機会にしている。受診のついでに馴染みの美容院に出かける利用者もいる。友達が毎月一回は来てくれる利用者もいるためゆっくり過ごす時間を配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶・食事の時間・食事作り・洗濯物干したたみなど日常の生活活動の中で職員も一緒に関わり一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている。また会話の中から利用者同士の関係を探り必要に応じ働きかけをしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡以外での契約終了者がいないため、実施はしていないが、今後契約終了と言う状況があればそれで終わりとはせず継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のニーズ・その人らしさを尊重し守っていきけるよう全職員が日々利用者からの情報を受け取れる姿勢でいる。月2回の会議は勿論だが日々職員は議論しあい声を掛け合い利用者の訴えに柔軟に対応する努力をしている。	利用者の思いの把握にはセンター方式を利用している。利用者の思いや暮らし方の意向を日々の利用者の生活や生活暦の中から捉えている。不穏や興奮する利用者の「俺は人間らしく生きたいんだ」という言葉を聞いたとき、その人の全人間性の尊重の理解、その人の不穏の理解がなされ、利用者の訴えに耳を傾ける大切さ、本人本位のケアの理解ができたともいう。	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に家族を巻き込んでの情報収集を行っている。利用者によっては自ら親戚に会いに行くといった希望をされ職員同行の下実際に交流する中から情報をえることもある。可能な範囲で様々な繋がりを大切にしている。また本人の人徳であったり親族の理解と協力あってこそ実現できている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握している部分もあるがまだまだ職員の思い込みで本人の有する能力の有無を決め付けてしまうこともあり。正確なアセスメントまたは評価を行い職員同士で十分な話し合いが必要。日常の中で個人の能力が活かされる環境作りや関わりを更に検討していくことが重要と思われる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズに即したプランの作成に努めている。主に本人の生活上の各領域や想いを中心にアセスメントし支援ニーズをあきらかにしていく。日々のモニタリング・評価は月2回の会議に職員の意見を持ち寄り行っている。いずれも「人」としての尊厳を守れるよう検討している。	月2回のミーティングで利用者についての話し合いを行なう。職員がそれぞれの意見を持ち寄り、利用者についての課題やケアについて話し合う。アセスメント、課題についても利用者の思い、職員がどう感じたか、何ができるのかという視点に立ちプラン作成に取り組んでいる。	介護計画は、アセスメント、モニタリングの繰り返しから設定期間ごとの見直しはもとより、モニタリングについては、毎月新たな要望、状況の変化がないようでも新鮮な目で見て確認していくことが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の日常生活記録や連絡ノートなどを用いて、十分な情報共有をタイムリーに行っている。カンファレンスの際に用いる用紙にて個別にモニタリングを行い記録したものはケアプランへ反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対し可能な限り柔軟な支援やサービスの提供に努めている。利用者の希望にて本人の親族のお悔やみに職員同行のうえ出掛けた実例がある。又定期受診時等基本は家族対応だが出来ない場合は職員対応にて支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室やスーパー・飲食店・医療・など利用者が必要とする資源は私達同様「人」として生きるうえで当たり前のもの。地域の理解や協力を得る必要性も現実あるが、行きつけの場所との繋がりが、楽しみは入居しても年を重ねても失われぬよう支援している。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。日々利用者の状態確認、その都度必要事項は医師に伝達し意思疎通が取れており相談に応じてもらっている。利用者の状態に応じ本人・家族と相談し他の専門医への受診を勧めるなどの支援が行っている。	入所時に、家族との話し合いでホームの協力医が主治医になっている。受診時は家族が付き添うことが原則となっており、家族と出かける時間の楽しみにもなっている。また、利用者の状態に応じ、家族と相談し専門医などに適切に受診が行なえる支援をしている。職員、主治医の連携も行なわれ、納得のいく受診に結びつくようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に情報交換出来ている。看護師も全利用者の生活状況を実際に見て関わることで把握でき必要に応じた対応を介護職に指示している。正確な判断が職員の安心を保ち利用者の安心にも繋がるよう取り組んでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に的確な情報を提供すると共に頻繁に見舞うことにより利用者の状況確認をし、病院関係者や家族等との情報交換しながら早期退院に向け相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意志確認可能な利用者については、日常の中のコミュニケーションからさりげなく終末期をどうしたいか等の話しをしていく中で本人の想いを確認していくよう努めている。重度化や終末期時は指針に添い医師・看護師・職員・家族と話し合い本人の意向に出来るだけ添った終末を迎えることが出来るよう努めている。	今までに、ホームでの看取りが一人あった。重度化や終末期の指針は作成されており、主治医、利用者、家族、職員、看護師などと話し合いを行い家族の協力を得ながら、本人、家族の意向を大事にした看取りとなった。その際、利用者に終末期についてどうしたいかを確認する良い機会になったようである。	重度化については、段階ごとに家族、医師などホーム関係者と意向を確認し方針の共有を図る。状況に応じた家族の揺れ動く気持ちの理解をしながら安心や納得のいく意思確認書などの作成によりホームが対応しうる最大のケアについて説明など行なうことが望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時を利用し起こり得る急変や事故を想定し勉強会を行ったり看護師による対応時の勉強会が行われ実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して通報訓練や避難訓練、職員の連絡網訓練又、消防署へ立会い依頼をし消火訓練を行い全職員が安全且つ迅速に利用者を避難誘導出来るような態勢作りに努めている。地域との協力体制は現在構築の段階である。	災害対策については、職員の連絡網訓練、避難訓練において利用者を屋外に連れ出してみる、消防署に来ていただき消火訓練を行なった。今後、地震への対応についても検討しており、夜間想定避難訓練も行なっていきたい。	運営推進会議において地域民生委員から災害についての体制づくりの重要性も提案されており、至急、運営推進会議において、地域の方の理解、行政の支援をいただきながら災害時の地域協力体制の構築に努め、避難訓練などの積極的な協力を求めていくことが望ましい。

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常々より「一人の人」としての対応を、と職員は徹底して基本としている。適切でない言葉かけや対応が見られた場合はその都度又はミーティング時を利用し改善を職員全員で話し合い行っている。	日常生活の中で利用者のプライバシーを損ねた言葉使いなどにも目をむけ、その都度話合っている。また、月2回のミーティングにおいても話し合い、排泄時の声かけなどについて本人のプライドを傷付けないように工夫を行なっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度のかかわりの中で選択肢の範囲を考慮したり、わかりやすく説明を加えたりし決して無理強いすることのないよう働きかけ、本人の思いや希望の表出や自己決定できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外食やドライブ等への参加も無理強いではなく希望者を対象としている。お茶の時間も声かけは行うが個々のペースにて又希望の場所で摂って貰っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出可能な利用者とは共に買い物に行き本人の気に入った洋服などを選んでもらっている。介助にての更衣が必要な利用者には何点かの中から選んでもらっている。又美容室等にも自ら申し出れない状態の利用者には定期的に声がけし了解を得て同行している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食無理のない範囲で食事作りや後片付けを利用者・職員と一緒にしている。メニューも利用者の好みを取り入れたり、土日にはお好みメニュー3品の中より食べたい物を選んでもらう機会を設けている。	食器を洗って布巾で一生懸命拭いている利用者、サラダを器に平等になるように盛り付けている利用者もおられ、自分で行なえることは率先して行なっている姿が見受けられた。食の楽しみとして土日は選択メニューを用意し自分の食べたいものを選んでもらい、選ぶ楽しみも作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量など確認の必要な利用者については記録し確認している。季節の野菜や果物を使用し家庭的な料理が提供されている。嚥下や咀嚼状況等に応じたメニューも必要あれば提供している。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の利用者には声かけや見守りを行い毎食後に行っている。義歯使用の方でも声かけ・見守り必要に応じ職員の介助にて先淨も行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についての個々の習慣や行動パターンを知り、行動を見守りながら声かけをしたり必要な場合は本人了解の下同行させてもらっている。失敗してしまったことで気持ちの落ち込みを最小限に止められるように努めている。	声かけの工夫をし、本人のプライドを傷つけない様に声かけの工夫をし失禁がなくなり日中はパンツ、夜間のみりハビリパンツとなった利用者もいる。個々の排泄パターンを把握し行動を観察し声かけをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取や便通を良くする食品の摂取、散歩など運動の必要もあること等の理解をして頂けるように働きかけを行っているが、本人の身体機能の状況も踏まえ、かかりつけ医と相談し便秘薬等の内服も並行しているがその時の状況を見ながら調節を行い本人の心身に負担のないように心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在の職員配置人数と利用者のレベルを考えると夜間帯の入浴希望は難しいが入浴回数やその日の時間帯は出来るだけ本人の希望に応じている。予定していても本人のその時の意向を尊重し無理強いはいはしない。又身体状況等により必要があれば毎日の入浴も行っている。	毎日、入浴を行なえる体制は出来ている。毎日の入浴は疲れるため、週3回を基本としている。入浴拒否のある人の対応なども工夫しながら行い、皮膚乾燥のある人などもおり、症状により入浴回数を考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やお茶の時間以外は基本的に個人の時間を大切にしている。日中の休息等は本人の生活習慣に添い意向を大切にしているが状況を見ながら声かけを行い気持ちよく休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は本人の情報から個々が持つ疾病の把握とそれに伴う内服薬の目的や副作用、用法や要領についての理解をし服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。必要があれば家族やかかりつけ医に相談ができる体制をとっている。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中から、若い頃の習いごとや興味があったが出来なかったことなどを知り実現できるよう支援し、楽しみとなっている。役割については、日常の活動の中で食事の支度・後片付け・洗濯物干したたみなど個々の出来ることで参加してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添い日常的に外出している。近所の散歩から買い物、季節に合わせて花見やイチゴ狩り・紅葉狩り等々への外出支援またミニバス旅行・個別対応外出など支援できている。ミニバス旅行時には家族への参加の呼びかけも行っている。	季節に合わせてイチゴ狩りや紅葉狩りなどバスで外出も行っている。買い物や近くの公園に出かける。また、個別支援も行い、温泉に連れて行ってもらう久しぶりの温泉につかりうれしそうにお湯に首まで使っている笑顔の写真がある。また、図書館に出かけ、本を読み食事を食べて帰ってくる利用者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	家族や本人と相談をし本人管理の下手元に所持をしていただいたり職員管理としているが、外出時には本人に持参して頂き、レベルに応じ支払い等も行ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い自由にやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	。天窓からの陽射しが室内を柔らかく照らしている。テレビの音やラジカセの音の強弱には注意を払い不快とならないよう努めている。庭やホールには季節の花が飾られ時には玄関に利用者が生けた花が飾られている。	オープンな広い玄関があり明るいゆったりとした空間がある。玄関先には外を眺め座ってられるイスがおりてあり屋外が気になる利用者の居心地の良い場所であるようだ。大きなこたつが居間に置かれ団欒の場所になっており、利用者の作品や生け花、写真、習字が飾られ、こち良い雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にはイスやテーブルが置かれホーム内にも所々にイスやソファ・又畳に炬燵がある。利用者は思い思いの場所でおしゃべりをしたり歌を唄いながら過している。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や家族の来訪時に相談をし本人の馴染みのものや好みの物等を持参してもらい居心地良く過せるよう努めている。	居室には、家族が用意してくれた使い慣れた筆筒が置いてあり、自分で衣類の整理をする人もいる。家族写真やおしゃれな利用者の部屋には等身大の鏡も備えてある。利用者の落ち着いた居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札の意味で本人と一緒に作った目印を設置したり、必要に応じトイレ等の表示がしてある。居室の移動はせず、テーブル席の移動もできる限りさげ、出来るだけ混乱や失敗を防ぎ自立した生活が送れるように工夫されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は、これまでの実践の中から学んだことを事業所としての理念として共有し「本人本位・利用者中心」の支援に努めている。</p>	<p>ホームの理念として大切にしている「本人本位・利用者中心」の支援を月2回のミーティングの中でスタッフが講師となることで意義が深められ、日々の行動で確認し合い、理念の共有や実践に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>隣接の小学校との交流会や地域の運動会や祭りへの参加・地区の支所での祭り時の作品出展も行うなど地域とのつながりを持つことが出来ている。またホームからの便りとして年2回の発行をしたりホーム祭りへの参加の呼びかけも行っている。</p>	<p>小学校のボランティアが年3回くらいホームに来て交流している。また、音楽会にも招かれ、地域の運動会や祭りに参加している。地域への作品の展示も行い、最近では書道ボランティアも定期的に来ることで利用者のいきいきした生活につながっている。また、ホーム便りも年に2回は回覧しホームの理解に努めている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>来訪時に相談にのったりアドバイスを行っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや活動内容を報告し参加者と意見交換している。出された意見や要望は後日職員とミーティング時に話し合いサービスの向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月ごとに行なっている。利用者の状況報告や活動報告を行い、ホームに対する要望や意見、地域の災害時の協力し合える体制作りの提案、助言もなされ今後の課題やホームの理解の場にもなっている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加依頼を行い出来る限り参加してもらっている。会議にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え必要に応じアドバイスしてもらっている。あんしん相談員の訪問は毎月あり協力関係が築けている。</p>	<p>運営推進会議にも地域包括支援センターと共に市担当職員も参加し、ホームの状況や課題についての助言をしている。またあんしん相談員も定期的に訪問し、推進介護の参加やボランティアなどの協力もいただけている。</p>	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解しており玄関等の施錠は勿論、過剰な薬物による拘束も行っていない。逆に医師と相談をしながら必要のない薬物を排除しかかわりで落ち着かれよい笑顔が出てきたという実例がある。	月2回のミーティングや日頃のケアの中で気をつけねばいけない言葉の拘束や過剰な薬物による拘束なども含め身体拘束について職員、管理者が正しく理解し日々取り組みをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的なものは勿論言葉による心理的な虐待についても学習し常に職員同士見過ごすことのない様に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はグループホームネットワーク会議又は、研修会等で学ぶ機会を持つことができおりミーティングにて職員に周知している。現在まで必要のある方はいないが、必要時関係者と話し合い支援できる体制づくりは出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等時には書面を使用し説明を行っている。不安や疑問には丁寧に対応し理解や納得をして頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者や家族の申し出にはいつでも相談にのれる態勢を整えている。あんしん相談員の来訪時利用者の話を聴いて頂き出された意見等については管理者に報告してもらい改善する点については話し合いの場を設けている。	利用者家族は、運営推進会議で意見を言える場があり、ホームに対する家族への連絡方法など不安のない連絡の工夫についての提案がなされ改善に結びついた。また、家族の来訪時にも意見など伺えるように声かけなどに努めている。今後、運営推進会議報告書など家族皆に送ることで更なる意見が、ホームの運営に反映できる手段になる様に考えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング時には運営者・経理担当者など全員参加し職員の意見等を聞く機会を設けている。又利用者の受け入れや職員交代の際は各リーダーの意見を聞き相談しながら行っている。	月2回のミーティングがあり、経営者、管理者が参加し、意見を言える環境にある。会議でも日々の中でも悩んでいることなども相談しやすい。ケアや運営に対する意見、提案もでき仕事の意欲につながっている。	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、日常的に管理者や、職員の顔が見える位置におり現場での職員の個々の努力や実績・勤務状態を把握し職場環境・条件等の整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、日常的に現場での職員個々の実際と力量を把握できる状況にあり経験年数や力量等を管理者と相談し研修を受ける機会の確保をし、ステップアップを進め代表者の関係で便宜が図れるときは積極的に声をかけてくれている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームネットワーク会議への参加をし勉強会や同業者との情報交換や意見交換をしている。相互訪問等についての話もあったが各ホームでも人員の問題もあり実現に繋がっていないのが現状である。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>自宅へ訪問し直接本人と会い不安なこと、困っていること、求めている事などを聴く機会を作り、受け止めるよう努めている。またホームの方へも来て頂きホームの様子などを見て頂く機会も設けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>自宅への訪問やホームの方へ来た時に困っている状況、不安なこと、求めていることの相談にのれるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の実情や本人の意向を聞き又ケアマネージャー等からも十分な情報を得るなどをし、見極めを行い他のサービス利用にての対応も考慮に入れた対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備・掃除・洗濯干したたみ等日常的な家事を共に行っている。又個々の利用者の得意とすることを見出し手助けを依頼し自信へと繋げている。行事等の準備も無理のない範囲で参加して貰っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を密にし本人に関する情報を共有し定期受診・買い物・行事への参加等出来ることは家族にも協力を求めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所時等心地よく過して頂けるよう努め本人との関係が途切れないよう支援している。又本人が出掛けたい場所等がある場合は出来るだけ応じていくよう努めている。	受診は毎月一回家族との関係性を保つためにも依頼し出かける機会にしている。受診のついでに馴染みの美容院に出かける利用者もいる。友達が毎月一回は来てくれる利用者もいるためゆっくり過ごす時間を配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活を共にしている時間が長くなると、利用者同士の関わり合いも多様になってきており、その場面の状況を見ながら、必要に応じて関わる等の支援に努めている。但し過度の介入を控えそれぞれの想いを優先にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで該当者がいなかったため支援の実施はない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から思いや暮らし方の希望や意向を把握出来る様努めている。又困難な利用者に関しても本人の有する能力に応じあくまでも本人の意志を尊重するよう努めている。	利用者の思いの把握にはセンター方式を利用している。利用者の思いや暮らし方の意向を日々の利用者の生活や生活歴の中から捉えている。不穏や興奮する利用者の「俺は人間らしく生きたいんだ」という言葉を聞いたとき、その人の全人間性の尊重の理解、その人の不穏の理解がなされ、利用者の訴えに耳を傾ける大切さ、本人本位のケアの理解ができたともいう。	

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報又入居後についても本人との会話の中から生活歴や生活環境などについて聞き馴染みの暮らし方の把握に努めている。又家族や友人等本人の関係者等からも情報を得よう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の心身の状態(排便・血圧・顔色・表情・食事・水分の摂取量等)の把握に努めている。有する能力については日常の活動の状況からはもちろん、定期的にセンター方式のシート等も利用し本人の現状の確認を行い可能性のあることに重点を置き出来るようになっていくよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い又必要に応じ関係者の意見を聞いた上でカンファレンスを行い介護計画に活かせるよう努めている。又センター方式のシートを利用し課題やケアのあり方等を明確にし、よりよい計画の作成となるよう努めている。	月2回のミーティングで利用者についての話し合いを行なう。職員がそれぞれの意見を持ち寄り、利用者についての課題やケアについて話し合う。アセスメント、課題についても利用者の思い、職員がどう感じたか、何ができるのかという視点に立ちプラン作成に取り組んでいる。	介護計画は、アセスメント、モニタリングの繰り返しから設定期間ごとの見直しはもとより、モニタリングについては、毎月新たな要望、状況の変化がないようでも新鮮な目で見て確認していくことが望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録に24時間体制で日々の様子やケアの実践・結果、気づき、本人の言葉等の記録を個別にし、職員間の情報の共有や実践等に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対し可能な限り柔軟な支援やサービスの提供に努めている。又定期受診時等基本は家族対応だが出来ない場合は職員対応にて支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区の民生委員に参加してもらっており地域の中での暮らしが継続出来るよう意見交換や相談をさせてもらっている。隣接の小学校との交流や地区の文化祭時書道や華道の作品の展覧に参加も出来た。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。日々利用者の状態確認、その都度必要事項は医師に伝達し意思疎通が取れており相談に応じてもらっている。利用者の状態に応じ本人・家族と相談し他の専門医への受診を勧めるなどの支援が行っている。	入所時に、家族との話し合いでホームの協力医が主治医になっている。受診時は家族が付き添うことが原則となっており、家族と出かける時間の楽しみにもなっている。また、利用者の状態に応じ、家族と相談し専門医などに適切に受診が行なえる支援をしている。職員、主治医の連携も行なわれ、納得のいく受診に結びつくようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な情報交換出来ている。看護師も全利用者の生活状況を実際に見て関わることで把握でき必要に応じた対応を介護職に指示している。正確な判断が職員の安心を保ち利用者の安心にも繋がるよう取り組んでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に的確な情報を提供すると共に頻繁に見舞うことにより利用者の状況確認をし、病院関係者や家族等との情報交換しながら早期退院に向け相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意志確認可能な利用者については、日常の中のコミュニケーションからさりげなく終末期をどうしたいか等の話しをしていく中で本人の想いを確認していくよう努めている。重度化や終末期時は指針に添い医師・看護師・職員・家族と話し合い本人の意向に出来るだけ添った終末を迎えることが出来るよう努めている。	今までに、ホームでの看取りが一人あった。重度化や終末期の指針は作成されており、主治医、利用者、家族、職員、看護師などと話し合いを行い家族の協力を得ながら、本人、家族の意向を大事にした看取りとなった。その際、利用者終末期についてどうしたいかを確認する良い機会になったようである。	重度化については、段階ごとに家族、医師などホーム関係者と意向を確認し方針の共有を図る。状況に応じた家族の揺れ動く気持ちの理解をしながら安心や納得のいく意思確認書などの作成によりホームが対応しうる最大のケアについて説明など行なうことが望ましい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時を利用し起こり得る急変や事故を想定し勉強会を行ったり看護師による対応時の勉強会が行われ実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して通報訓練や避難訓練、職員の連絡網訓練又、消防署へ立会い依頼をし消火訓練を行い全職員が安全且つ迅速に利用者を避難誘導出来るような態勢作りに努めている。地域との協力体制は現在構築の段階である。	災害対策については、職員の連絡網訓練、避難訓練において利用者を屋外に連れ出してみる、消防署に来ていただき消火訓練を行なった。今後、地震への対応についても検討しており、夜間想定避難訓練も行なっていきたい。	運営推進会議において地域民生委員から災害についての体制づくりの重要性も提案されており、至急、運営推進会議において、地域の方の理解、行政の支援をいただきながら災害時の地域協力体制の構築に努め、避難訓練などの積極的な協力を求めていくことが望ましい。

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常々より「一人の人」としての対応を、と職員は徹底して基本としている。適切でない言葉かけや対応が見られた場合はその都度又はミーティング時を利用して改善を職員全員で話し合い行っている。	日常生活の中で利用者のプライバシーを損ねた言葉使いなどにも目をむけ、その都度話合っている。また、月2回のミーティングにおいても話し合い、排泄時の声かけなどについて本人のプライドを傷付けないように工夫を行なっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度のかかわりの中で選択肢の範囲を考慮したり、わかりやすく説明を加えたりし決して無理強いすることのないよう働きかけ、本人の思いや希望の表出や自己決定できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし本人がやりたい事など意向や希望に添った支援をしている。行事や外出なども無理強いをせず、本人の意志を優先している。又お茶なども好きな場所で摂ってもらっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出可能な利用者とは共に買い物に行き本人の気に入った洋服などを選んでもらっている。介助にての更衣が必要な利用者には何点かの中から選んでもらっている。又美容室等にも自ら申し出れない状態の利用者には定期的に声がけし了解を得て同行している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食無理のない範囲で食事作りや後片付けを利用者・職員と一緒にしている。メニューにも利用者の好みを取り入れたり、週2回お好みメニューとし3品の中から食べたいものを選んで食べてもらっている。	食器を洗って布巾で一先懸命拭いている利用者、サラダを器に平等になるように盛り付けている利用者もあられ、自分で行なえることは率先して行なっている姿が見受けられた。食の楽しみとして土日は選択メニューを用意し自分の食べたいものを選んでもらい、選ぶ楽しみも作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせた食事量で摂ってもらっている。必要時は摂取量の記録をとり状況把握に努めている。体調に合わせ食欲のない方には食べたいもの、又おかゆや消化の良い物などを工夫し提供している。必要時は家族了解のもとバランス栄養食なども使用し体力の維持を図っている。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯の利用者には声かけや見守りを行い毎食後行っている。義歯使用の方でも声かけ・見守り必要に応じ職員の介助にて先淨も行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についての個々の習慣や行動パターンを知り、行動を見守りながら声かけをしたり必要な場合は本人了解の下同行させてもらっている。失敗してしまったことで気持ちの落ち込みを最小限に止められるように努めている。	声かけの工夫をし、本人のプライドを傷つけない様に声かけの工夫をし失禁がなくなり日中はパンツ、夜間のみりハビリパンツとなった利用者もいる。個々の排泄パターンを把握し行動を観察し声かけをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容等にも注意しながら水分摂取の声かけ、散歩や運動の必要も理解してもらえよう努めているが、必要時は本人に負担のない範囲でかかりつけ医と相談し状況に応じて内服も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在の職員配置人数と利用者のレベルを考えると夜間帯の入浴希望は難しいが入浴回数やその日の時間帯は出来るだけ本人の希望に応じている。予定していても本人のその時の意向を尊重し無理強いはいはしない。又身体状況等により必要があれば毎日の入浴も行っている。	毎日、入浴を行なえる体制は出来ている。毎日の入浴は疲れるため、週3回を基本としている。入浴拒否のある人の対応なども工夫しながら行い、皮膚乾燥のある人などもおり、症状により入浴回数を考えている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やお茶の時間以外は基本的に個人の時間を大切にしている。日中の休息等は本人の生活習慣に添い意向を大切にしているが状況を見ながら声かけを行い気持ちよく休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は本人の情報から個々が持つ疾病の把握とそれに伴う内服薬の目的や副作用、用法や要領についての理解をし服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。必要があれば家族やかかりつけ医に相談ができる体制をとっている。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中から、若い頃の習いごとや興味があったが出来なかったことなどを知り実現できるよう支援し、楽しみとなっている。役割については、日常の活動の中で食事の支度・後片付け・洗濯物干したたみなど個々の出来ることで参加してもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添い日常的に外出している。近所の散歩から買い物、季節に合わせて花見やイチゴ狩り・紅葉狩り等々への外出支援またミニバス旅行・個別対応外出など支援できている。ミニバス旅行時には家族への参加の呼びかけも行っている。	季節に合わせてイチゴ狩りや紅葉狩りなどバスで外出も行っている。買い物や近くの公園に出かける。また、個別支援も行い、温泉に連れて行ってもらう久しぶりの温泉につかりうれしそうにお湯に首まで使っている笑顔の写真がある。また、図書館に出かけ、本を読み食事を食べて帰ってくる利用者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談の上本人に管理してもらったり事業所にて預かったりしている。外出時には利用者のレベルに応じ所持して頂いたり見守りにて支払いの支援も行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い自由にやり取りが出来るよう支援出来ている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの陽射しが室内を柔らかく照らしている。テレビの音やラジカセの音の強弱には注意を払い不快とならないよう努めている。庭やホールには季節の花が飾られ、時には玄関に利用者が生けた花が飾られている。	オープンな広い玄関があり明るいゆったりとした空間がある。玄関先には外を眺め座ってられるイスがおりてあり屋外が気になる利用者の居心地の良い場所であるようだ。大きなこたつが居間に置かれ団欒の場所になっており、利用者の作品や生け花、写真、習字が飾られ、こち良い雰囲気である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にはイスやテーブルが置かれホーム内にも所々にイスやソファ・又畳に炬燵がある。利用者は思い思いの場所でおしゃべりをしたり歌を唄いながら過している。		

外部評価結果(グループホームあさかわ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や家族の来訪時に相談をし本人の馴染みのものや好みの物等を持参してもらい居心地良く過せるよう努めている。	居室には、家族が用意してくれた使い慣れた筆筒が置いてあり、自分で衣類の整理をする人もいる。家族写真やおしゃれな利用者の部屋には等身大の鏡も備えてある。利用者の落ち着いた居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札の意味で本人と一緒に作った目印を設置したり、必要に応じトイレ等の表示がしてある。居室の移動はせず、テーブル席の移動もできる限りさげ、出来るだけ混乱や失敗を防ぎ自立した生活が送れるように工夫されている。		